

TAD Letter | 13



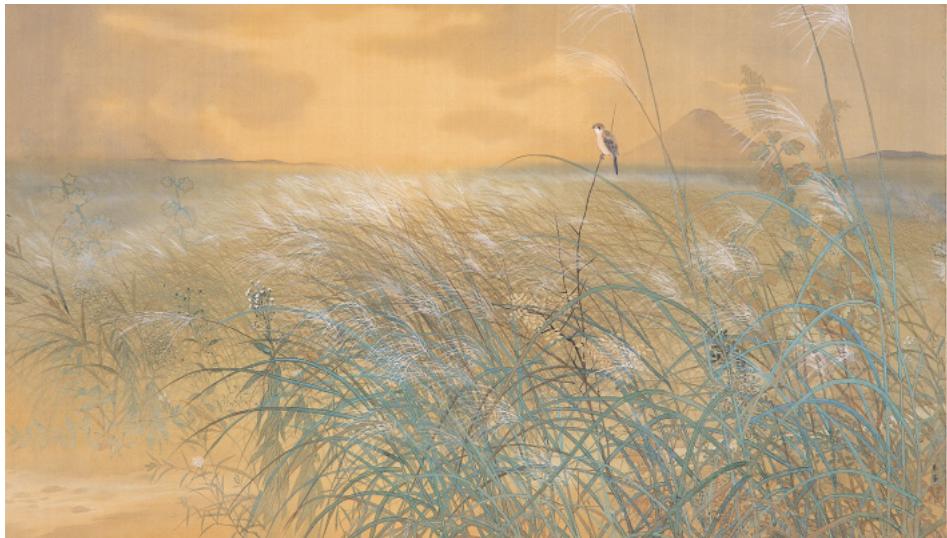
富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design



見どころ

| 主要作品紹介 |



菱田春草《武藏野》1898年 当館蔵



石崎光瑠《晨朝》1939年 当館蔵



片岡珠子《立山》1983年 当館蔵

01

富山県美術館が所蔵する日本画の名品55点を一挙に大公開

近代から現代まで、幅広く活躍した日本画のコレクション作品を、一挙に公開する貴重な機会です。日本の画壇を革新的に牽引した作家、国内外で活躍する作家、富山にゆかりのある作家などジャンルに囚われない名品群をお楽しみいただけます。

02

5つのテーマに沿って、絵を見るポイントに注目

【いつ、なし、だれ、どこ、どのように】の5つのテーマに沿った作品鑑賞をご提案。絵に描かれている“ものごと”や“できごと”について丁寧に読み解きながら、作品理解を深めてみてはいかがでしょうか。

03

心を和ませる、日本画の持つ“やさしさ”にホッと一息

日本の伝統的な制作技法や精神を受け継いでいる日本画には、どこか見た人の心を穏やかにさせる品格や、柔軟な優美さなどが感じられるはずです。不安な社会情勢が続く中、画家達が表現した“やさしさ”を感じる世界観をご堪能ください。

国際工芸アワードとやま2020

2021年2月25日(木) - 4月4日(日)



「国際工芸アワードとやま」は、工芸の世界的な潮流を捉え、工芸の未来ビジョンを描くことを目的とし、50歳以下の工芸に携わる若き作家、職人、デザイナーなどを対象とした新たな国際公募展です。

2月に、1次審査を通過したガラス、陶磁、金工、染織、漆芸、木工など、世界22の国と地域の応募作品を対象に、各工芸分野の第一人者である選考委員による工芸作品・表現・技術について総合的に審査が行われ、最優秀賞、優秀賞、奨励賞などの受賞作品が決定されました。

本展では、この最優秀賞、優秀賞などの受賞作品のほか、世界各地の技法や材料を活かした表現豊かな応募作品も一堂に展示しています。また、工芸作家である選考委員の作品や「U-50国際北陸工芸アワード」(2017開催)で最優秀賞を受賞した川原隆邦氏の和紙による作品も特別に展示しておりますので、これらの作品も必見です。本展は工芸の世界的な潮流を捉えた数々の作品を展示していますので、この機会にぜひ世界の工芸／日本の工芸／富山の工芸をご覧いただき、工芸の世界的な新しい潮流をご体感ください。

開催概要

開館時間	9:30-18:00 (入館は17:30まで)
休館日	毎週水曜日
会場	富山県美術館2階 展示室2
主催	富山県／共催：(公財)富山県文化振興財団、 (一社)富山県芸術文化協会、富山県教育委員会
後援	ブリティッシュ・カウンシル、中華人民共和国駐名古屋総領事館、駐日イタリア大使館 富山県市長会、富山県町村会、北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞北陸支社 朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、北陸中日新聞、日本経済新聞社富山支局 共同通信社富山支局、時事通信社富山支局、北日本放送、NHK富山放送局、富山テレビ放送 チューリップテレビ、富山エフエム放送、日刊工業新聞社富山支局、富山県ケーブルテレビ懇話会 (一社)富山県ケーブルテレビ協議会、国際交流基金、(一社)日本工芸産地協会
観覧料	一般 500 (400) 円、大学生 250 (200) 円、高校生以下無料 ※ () 内は20名以上の団体料金

次回開催の展覧会

チューリップテレビ開局30周年記念 ポーラ美術館コレクション展—印象派からエコール・ド・パリー

2021年4月24日(土) - 6月27日(日)

2002年9月に富士箱根伊豆国立公園内の箱根・仙石原に開館したポーラ美術館のコレクションは多岐にわたり、その総数は約1万点におよびます。中でも西洋絵画のコレクションは、19世紀フランス印象派から20世紀絵画にいたるまで、西洋の近代美術の展開を体系的にたどることのできる、国内でも屈指のコレクションです。

本展覧会では、「印象派からエコール・ド・パリー」と題し、ポーラ美術館収蔵作品からモネやルノワールの印象派、セザンヌ、ゴッホなどポスト印象派、マティス、ピカソら20世紀を代表する画家たち、そしてユトリロやシャガールなどエコール・ド・パリーに至るまで、フランスで活動した作家による74点の絵画と、12件の化粧道具を精選しご紹介します。画家たちを魅了してやまないフランスという地で、時代や様式を超えて受け継がれる美意識を、ぜひ会場でお楽しみください。



MASTERPIECES OF THE POLA MUSEUM OF ART: IMPRESSIONISM TO ÉCOLE DE PARIS
2021年4月24日(土) - 6月27日(日)

開館時間 09:30-18:00 (入館は17:30まで) 休館日 4月29日(木・祝) 5月6日(木)
APRIL 24TH-JUNE 27TH, 2021
OPENING HOURS: 09:30-18:00 (Last admission 17:30)
EXHIBITION CLOSURE: 4/28, 5/6, 12, 19, 26, 6/2, 9, 16, 23



富士箱根伊豆国立公園
ポーラ美術館

ポスター Design : 三木 健

開館時間 9:30-18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週水曜日、5月6日(木)※4月29日(木・祝)から5月5日(水・祝)は無休

会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4

主催 富山県、ポーラ美術館コレクション展実行委員会(富山県美術館・チューリップテレビ)

公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館

後援 朝日新聞富山総局、北日本新聞社、富山新聞社

北陸中日新聞、毎日新聞富山支局、読売新聞北陸支社

協賛 NISSHA

協力 ヤマト運輸

企画制作 TBSテレビ

企画協力 テモアン

観覧料 一般 1,400 (1,200) 円、大学生 1,000 (800) 円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

開催概要

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

関連イベント

※記載内容は都合により変更する場合があります。

当館ホームページ、SNS等をご確認の上ご来館されることをお勧めいたします。

「富野由悠季の世界」富山会場 特別企画

富野由悠季×細田守 スペシャル対談

企画展「富野由悠季の世界」の特別企画として、2020年11月28日(土)に、富野由悠季監督と細田守監督のVV監督によるスペシャル対談を開催しました。「40年前に富野監督作品を見ていた、かつての富山の少年を代表してお話を聞きます」という細田監督の言葉から始まった対談は、富野監督の作品内容に限らず、創作することの意義、今を生きることの大切さ、全身全霊で挑む覚悟など、多くの方に響く対談となりました。

今回、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、限られた人数での開催と

なったため、企画展開催期間中は美術館公式YouTubeにて2021年1月24日まで対談を無料公開いたしました。また、お2人による会場トークも収録、一部YouTubeにて無料公開しました。



当日の会場の様子

いろいろやっ^{てん}展 みる+つくる+発表する

アトリエ・ドキュメント 2020

2020年12月12日(土)-2021年1月26日(火)まで、1階TADギャラリーにて、「いろいろやっ^{てん}展 みる+つくる+発表する アトリエ・ドキュメント 2020」を開催しました。

当館では、美術作品の鑑賞だけではなく、アトリエを中心とした、みる・つくる・学ぶといった双方向的な美術の体験活動を、年間を通して提供しています。本展では、2019年10月1日から2020年11月22日の期間、当館アトリエを中心に実施した「TADワークショップ」、「オープンラボ」などに参加されたみなさんの作品や報告パネルを色とりどり

に展示しました。また、2020年度新たに実施した動画プログラム「どこでもTADワークショップ」「やってみよう！どこでもオープンラボ」の配信動画も会場内で上映しました。



1階TADギャラリーの展覧会会場の様子

おるぞー！ミルゾー！つくるぞー！ ミルゾー紙ふうせん

3Fアトリエでは、当館のマスコットキャラクター「ミルゾー」の紙ふうせんをご自宅で制作していただける折り紙を配布しています。

富山県美術館の人気者『ミルゾー』は、2011年に富山県立近代美術館30周年を記念して永井一正氏（グラフィックデザイナー）によりデザインされたマスコットキャラクターです。生まれた当初はグリーンを基調とした色でしたが、富山県美術館に移転後はブルーに色が変わり、アトリエ活動を盛り上げる立役者として活躍中です。

配布期間 2021年1月4日（月）～3月30日（火）

材 料 ミルゾーおりがみ5色、折り方ガイド

配布場所 富山県美術館3階 ラボ（アトリエ内）

主 催 富山県美術館

参 加 費 無料

内 容 5色あるミルゾーおりがみの中から好きな色を選び、折り方ガイドと一緒に一人1枚お持ち帰りください。



イベント案内

アーティスト@TAD 写真家・浅田政志「私の2020年」

アーティスト@TADは、アーティストが富山県美術館(TAD)を拠点に滞在制作し、その手法や考え方をワークショップを通して人々と共有し、それら全ての活動から生まれたものを含む成果展示を開催するものです。2020年度は、写真家・浅田政志氏を招き、「私の2020年」をテーマに浅田氏の世界を紹介します。

本展では、2020年11月に「私の2020年」をテーマに、浅田氏が富山の人を撮影した作品や、同テーマのもと、浅田氏によるレクチャー後、参加者自身がセルフポートレートに挑戦したワークショップの作品、浅田氏自身の新作などを展示します。

展示企画①…浅田政志《浅田家全国版》2020年

展示企画②…浅田政志 滞在制作シリーズ

展示企画③…ワークショップ参加者の作品《私の2020年》

展示企画④…アーティスト@TAD 浅田政志「私の2020年」記録映像

日 時 2021年3月20日（土）～5月9日（日）

会 場 富山県美術館1階 TADギャラリー

料 金 無料



浅田政志《浅田家全国版》2020年

屋内の女

野見山暁治

1950年

キャンバス・油彩

100.0×65.4

(野見山暁治氏寄贈)

©野見山暁治財団



青い服の女性が椅子に腰掛け、髪をかき上げている。筒のような首に据えられた楕円の顔に、表情は描かれていない。女性の姿、椅子、背景は強い陰影で形が強調されており、この重い色調の画面のなかで際立つのは女性像よりも強い線と形の構成であろう。

野見山は、炭鉱の町であった現在の福岡県飯塚市に生まれた。山河に炭鉱のボタ山のある風景、その自然と人工的な創造物が混然となった様が画家の原風景である。東京美術学校で学んだ時代、フォーヴィスムに惹かれていた野見山は、絵とは感情を吐き出すものと考えていたという。しかし、戦争の時代を抜けた虚脱感のなかで、キュビズム的な形態の捉え方や画面構成によって、感情を排した強い絵画を目指していく。この時代、野見山が30才の頃に描かれた《屋内の女》もまた、人と室内にある形が混然となった画面構成の試みなのだろう。そして、強い線の構成と重い色調は、炭鉱の原風景と敗戦後の時代の空気を映し出しているようだ。

《屋内の女》は1950年の自由美術家協会の第14回展

で発表、1952年にはタケミヤ画廊での個展で炭鉱を描いた作品と共に展示された。

タケミヤ画廊は東京の神田駿河台の竹見屋洋画材店に併設された画廊であり、新鋭の作家たちに無償で提供された場である。そして、展示作家の選考は、美術評論家で詩人の瀧口修造が無報酬で引き受けていた。画廊が開かれた1951年から1967年までの間、加納光於、渡米前の草間彌生、野見山と同じく自由美術家協会に参加した小山田二郎など全208回の企画展が開かれた。当館の瀧口修造コレクションには、タケミヤ画廊を介した作家たちとの交流を示す作品が残されている。《屋内の女》は長らく野見山自身が手元に置いていたが、瀧口と野見山をつなぐ作品として作家本人から当館が寄贈を受けた。

タケミヤ画廊での個展からほどなく、野見山は私費留学生としてパリに旅立つ。野見山が風景の中にある形を捉えて描いたモノクロームの画面は、パリでの制作で鮮やかな色彩を得ていく。

(学芸課副主幹 稲塚 展子)

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町 3-20 (富岩運河環水公園内)

TEL 076-431-2711 FAX 076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>

表紙：斎藤清策《山路》1991年